

LMcorsa

60

● H.YOSHIMOTO

● R.MIYATA

SUPER GT 2019

Race Report Fuji Speed Way Official Test

3月30日 - 31日 | 天候:くもり/晴 | コース:富士スピードウェイ | 路面:ドライ

TEST Days Summary

富士スピードウェイで開催された開幕戦前の最後の公式テスト

2日間ともにトラブルなく精力的にテストを行ない二人のドライバーが合計で215周を走行

課題は残るものの開幕戦に向けて着実に歩みを進める

TEST Days

SUPER GTの2019年シーズンは、3月16日(土)、17日(日)に岡山国際サーキットで実施された第1回の公式テストにより正式なプログラムがスタート。そして1週間のインターバルを経て、3月30日(土)、31日(日)の2日間に亘って第2回の公式テストが富士スピードウェイで行なわれた。両日ともに2時間のセッションが2回あり、合計8時間の走行枠が設けられている。



SUPER GTの開幕戦は4月13日(土)、14日(日)に岡山国際サーキットで開催予定となっていて、開幕戦前の最後の走行テストが今回の第2回公式テストになる。各陣営ともに、オフシーズンに実施されたメーカーテストやプライベートテストで今シーズンの方向性やセットアップを煮詰めてきていて、その最終的な確認を今回の富士スピードウェイで行なうことになる。またゴールデンウィークには、同じ富士スピードウェイで第2戦が予定されていて、通常の決勝レースよりも長い500kmの戦いとなる。そのレースを想定したテストプログラムも組み込まれている。

第1回の公式テストではウエットコンディションでの好調さと引き換えに、ドライ路面でタイムが伸び悩んだSYNTIUM LMcorsa RC F GT3。1週間のインターバルで原因を追究して、2回目の公式テストに挑むこととなった。

TEST Days

今回のテストでは第二ドライバーの宮田莉朋選手が欠席のため、2016年シーズンにも助っ人としてLMcorsaに加わったドミニク・ファーンバッハー選手を代りに起用。パートナーの吉本大樹選手は、「ドミニク選手はチームとの馴染みもありますし、なによりもLEXUS RC F GT3を知っているドライバーなので力強いパートナーです」と話す。VLNニュルブルクリンク耐久シリーズ

をはじめ、多くのレースでLEXUS RC F GT3をドライブした経験を持つファーンバッハー選手は、LMcorsaにとって有益な情報をもたらすこととなった。

テスト初日となった30日(土)は気温が10℃に届かず春らしい陽気ではなかったが、心配されていた雨は降らずにドライコンディションでの走行となった。1本目のセッションは予定通りの9

時30分にスタート。まずは吉本選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込み8周を走行して各部のチェックを行なうと、ファーンバッハー選手がステアリングを握った。約3年ぶりのSUPER GTでの走行となったが、GT500マシンとの混走も問題なく9周を周回した。その後は、吉本選手がテストプログラムを消化し、2時間のセッションが残り15分となったところで、再びファーンバッハー選手が走行。セッション前半の9周と合わせて計19周を走行し1分39秒113がベストタイムだった。1本目のセッションのベストタイムは吉本選手がマークした1分38秒019で、GT300クラスの29台中23番手の結果となった。

2本目のセッションは、13時30分から15時30分の2時間に亘って実施され、最後の10分はGT300クラスの専有走行となった。このセッションでも、まずは吉本選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込む。ピットインとアウトを繰り返してセットアップを進めるとともに持ち込んだタイヤの比較も行なう。セッション後半の43周目に1分37秒936のベストタイムをマークし

て、最後の10分間の専有走行はファーンバッハー選手に託すことになった。このセッションのベストタイムは吉本選手が記録したもので、結果はGT300クラスの29台中19番手となった。



TEST Days

初日のテストが終了して数時間が経つと、昼間の天候と打って変わって大粒の雨が富士スピードウェイに降りつける。テスト2日目となる31日(日)は好天となったが、路面の一部は昨日の雨が残っていた。3本目のセッションは予定通りの9時にスタートするが、最初の15分を使って行なわれる予定だったセーフティカー訓練は、コースコンディションの回復を待つためにセッションの最後に実施されることになった。このセッションでも吉本選手が精力的にSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握る。約1時間で26周を走行すると、ファーンバツハー選手にバトンタッチ。セーフティカー訓練も含めて25周を走行したファーンバツハー選手は、セッション終盤には1分38秒311のベストタイムをマークした。

最後のセッション4は13時15分から15時25分までの2時間10分で、セッション3での赤旗中断の影響を考慮して終了時間が10分延長となった。再びSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込んだ吉本選手は、セットアップの最終確認を行ないながら26周を走行。セッション開始から1時間が経過するとファーンバツハー選手が乗り込み、予定通りにロングランの確認へと移行する。途中で赤旗による中断はあったが、約20周の連続走行を2回行なう。このセッションは二人のドライバーの合計で64周を走行。4本のセッションでもっとも多くの周回数となった。

今シーズンは使用するタイヤをダンロップに変更したLMcorsa。まだ、タイヤとのマッチングに苦慮しているところもあるが、2回の公式テストで得たデータを活かして2週間後に行なわれる開幕戦では上位進出を目指す。

Team Comment



Driver :吉本 大樹

前回の岡山国際サーキットでのテストでも課題になった全体的なスピードアップが果たせないままで、苦戦していることは事実です。富士スピードウェイは、冬場のメーカーテストでも走行したのですが、そのときの状況との再現性がないのが問題です。その中でも第2戦の富士スピードウェイラウンドを想定したテストでは良い感触も得られています。テストに参加してくれたドミニク選手は、チームと上手くコミュニケーションを取っていますし経験豊富なドライバーなので、優れた情報をもたらしてくれました。開幕戦まで時間がないですが2回のテストで得られたデータを改めて確認して、しっかりとマシンを作り上げていきたいです。



Driver :ドミニク・ファーンバツハー

テスト初日は路面温度が低かったために、マシンのスピードが足りなく苦労しました。一方で、二日目は初日とは異なるテスト内容となり、タイムを狙わずに走行を重ねました。今シーズンからダンロップタイヤに変更したことで、まだベストなマッチングに届いていませんが、チームはプロフェッショナルですしタイヤメーカーのエンジニアも協力的に支援してくれているので時間が経てば問題は解決できるはずです。吉本選手と私のドライビングスタイルは似ているので、課題となっているところもすぐに共有できます。お互いに協力しあって仕事できることに喜びを感じています。